

葉を切さるべし、むしおほく出来ては葉をなくひからし、後には實をもくひつくし、其むしなむも其ほとり、うへものに害をなす事はなほだおほし、ゆだんなく葉をきりてさるべし。

〔草木育種〕下罌子粟本草 八月種を下し、灰人糞を薄して度々澆べし、又びぞんそうも、罌子粟に似

て小さいもの也、肥も同じ、花鏡云、錦被花未種前須糞地極肥、後以釜底烟煤拌撒用細泥蓋之、可免蟻食。

〔食物和歌本草〕五罌子粟

けしの實は邪熱を逐て風氣やり、反胃胸中の痰をながせり、けしの實を粥となしつ、竹瀝をませつ、瀉痢や潤燥を治す。

〔佐渡志〕五罌粟子 方言ケシノミ、羽茂郡ニ多シ、花ヲ賞シテ佛前ニ供ス、美人草ノ名アリ、チ

リヤスキヲ以テ、佛ニ供スルナルベシ、稀ニ阿片トテ、脂ヲトリ製スルモノアリ、

〔書言字考節用集〕六美人草一名錦被花、本名麗春花、本朝俗所呼花罌粟也。

〔大和本草〕七虞美人草 名花譜云、花四瓣色、艷類罌粟而小ナリ、園史云、吳俗呼爲虞美人草、蓋罌

粟之別種也、今國俗ニ美人草ト稱ス、ケシニ似テ小ナリ、紅紫白ノ三種アリ、千葉アリ、單葉アリ、重

葉アリ、紅夷ヨリ來ル種アリ、八月ニ子ヲマク、早ク生ズルハ單葉也、千葉八重ハ單葉ヨリヲソク

生ズ、他花モ亦如此、肥テ軟ナル沙土ヨシ、ウヘテ上ニ灰ヲオホヒ、冬月糞ヲ置ベシ、春月ハ糞ヲイ

ム、虫生ゼバ去ベシ、春ハ魚汁ヲソ、グベシ、四五月ニ花ヲヒラク、花甚艷ナリ、好花トス、苗生ジテ

ノチ他土ニウツシテモヨシ、不移ニハシカズ、冬月早ク糞水小便ヲソ、グベシ、此物根小ニ莖多

長大ニシテ、風ニ倒ヤスシ、每根厚ク培カヒ、小竹ヲ立テ助ケ結ブベシ、

〔剪花翁傳〕三四月開花、美人艸、麗春花、花一重あり、八重あり、色綠紅に腰紫、開花四月中旬、方日向地

一分濕土えらばず、肥淡小便、芽出し後一度そ、ぐべし、花前に四五度そ、ぐべし、下種秋彼岸苗

代にすべし、分株十月上旬にすべし、

虞美人草